

Ⅲ 耕地の利用状況

1 夏期における田本地の利用状況

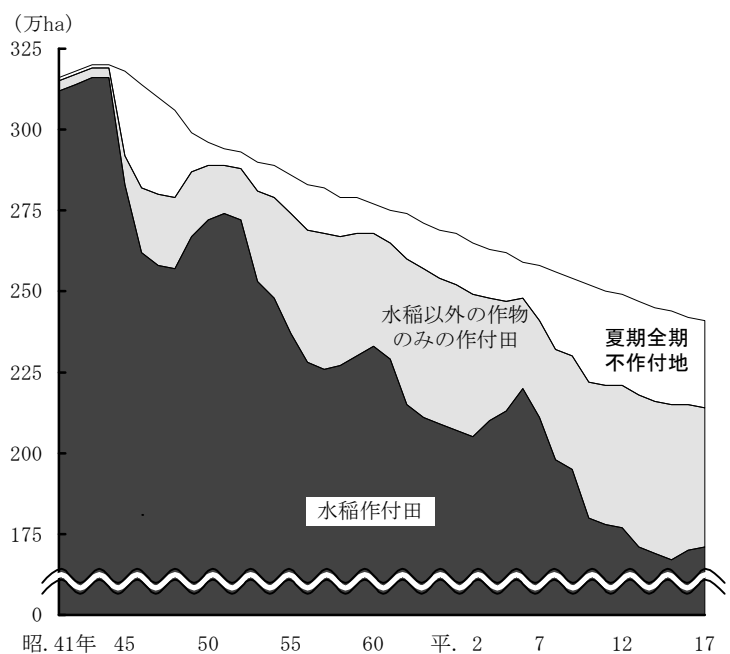
(1) 平成17年夏期（おおよそ水稲の栽培期間）における田本地の利用状況をみると、水稲作付田は170万8,000haで、前年並みとなった。水稲以外の作物のみの作付田は43万1,100haで、前年に比べて1万6,600ha（4%）減少した。また、夏期全期不作付地は27万200haで、前年に比べて3,500ha（1%）減少した。

この結果、田本地に占める水稲作付田の割合は前年に比べて0.6ポイント上昇して70.9%となり、水稲以外の作物のみの作付田の割合は前年に比べて0.6ポイント低下して17.9%、夏期全期不作付地の割合は前年に比べて0.1ポイント低下して11.2%となった。（表13）

(2) 夏期における田本地の利用状況

の動向をみると、昭和45年以降米の生産調整の実施により水稲以外の作物のみの作付田及び夏期全期不作付地が大幅に増加した。49年以降は休耕奨励補助金の打ち切りや米の生産調整面積の緩和等により夏期全期不作付地が減少し、水稲作付田が増加した。53年以降は「水田利用再編対策」及び「水田農業確立対策」の実施により水稲作付田が減少し、水稲以外の作物のみの作付田が増加する傾向にあった。平成4年から6年までは米の生産調整目標面積の緩和措置等により水稲作付田が増加し、水稲

図16 夏期における田本地の利用状況の推移



以外の作物のみの作付田が減少したが、7年は米の生産調整目標面積に指標面積が追加されたこと、8年以降は「新生産調整推進対策」及び「緊急生産調整推進対策」の実施により、米の生産調整目標面積が増加したことから水稲作付田が減少し、水稲以外の作物のみの作付田及び夏期全期不作付地が増加傾向となった。12年からは「水田を中心とした土地利用型農業活性化対策」が推進されたことから、水稲以外の作物のみの作付田が増加していたが、16年及び17年は減少した。（図16）

表13 平成17年夏期における田本地の利用状況

区分	面積	構成比	前年との比較	
			対差	対比
田本地	ha	%	ha	%
水稲作付田	2 410 000	100.0	△ 15 000	99
水稲以外の作物のみの作付田	431 100	17.9	△ 16 600	96
夏期全期不作付地	270 200	11.2	△ 3 500	99

注：田本地面積とは夏期における田本地面積のことであり、この間に耕地災害によるかい廃や復旧等があった場合には、7月15日現在の本地面積とは必ずしも一致しない。

2 農作物作付(栽培)延べ面積及び耕地利用率

(1) 農作物作付(栽培)延べ面積

ア 田畑計

平成17年農作物作付(栽培)延べ面積は438万4,000haで、前年に比べて3万8,000ha(1%)減少した。(表14)

これは、飼肥料作物、豆類、野菜等の作付(栽培)面積が減少したためである。

作付(栽培)延べ面積の動向をみると、昭和40年代は麦類を中心とした水田裏作の減少や、45年から始まった米の生産調整による不作付地の急増により田を中心に大幅に減少を続けてきたものの、49年以降は麦類の生産振興による作付回復等からほぼ横ばいで推移した。60年以降は生産者の労働力事情等により麦類及び豆類等も減少し、平成10年からは米の生産調整の一環で麦類及び豆類の作付けは増加したものの、総体的には減少傾向で推移している。(図17)

イ 田

田の作付(栽培)延べ面積は237万9,000haで、前年に比べて2万4,000ha(1%)減少した。(表14)

これは、飼肥料作物の作付(栽培)面積が畜産飼養戸数・頭数の減少等により減少したに加え、麦類及び豆類でも作付面積が減少したためである。

表14 平成17年農作物作付(栽培)延べ面積及び耕地利用率

単位：ha

区 分	田 畑 計				田			畑		
	作付(栽培) 延べ面積	前年との比較		耕 地 利用率	作付(栽培) 延べ面積	前年との比較		作付(栽培) 延べ面積	前年との比較	
		対差	対比			対差	対比		対差	対比
			%	%			%			%
作付(栽培)延べ面積	4 384 000	△ 38 000	99	93.4	2 379 000	△ 24 000	99	2 005 000	△ 14 000	99
稲	1 706 000	5 000	100	36.4	1 701 000	5 000	100	4 710	△ 220	96
麦 類	268 700	△ 4 200	98	5.7	167 300	△ 6 800	96	101 400	2 600	103
かんしょ	40 800	500	101	0.9	3 030	90	103	37 800	400	101
雑 穀	45 900	1 300	103	1.0	29 700	0	100	16 200	1 300	109
豆 類	193 900	△ 8 000	96	4.1	120 800	△ 5 100	96	73 100	△ 2 900	96
野 菜	563 200	△ 5 700	99	12.0	150 300	△ 1 400	99	412 900	△ 4 300	99
果 樹	265 400	△ 2 500	99	5.7	-	-	-	265 400	△ 2 500	99
工芸農作物	178 100	△ 4 800	97	3.8	9 720	△ 580	94	168 300	△ 4 400	97
飼肥料作物	1 030 000	△ 17 000	98	22.0	168 600	△ 14 700	92	861 600	△ 2 600	100
その他作物	91 900	△ 1 500	98	2.0	28 000	△ 500	98	63 900	△ 1 000	98
耕地面積	4 692 000	△ 22 000	100	-	2 556 000	△ 19 000	99	2 136 000	△ 3 000	100
本地面積	4 498 000	△ 18 000	100	-	2 410 000	△ 15 000	99	2 088 000	△ 3 000	100
耕地利用率	93.4%	△0.4ポイント	-	-	93.1%	△0.2ポイント	-	93.9%	△0.5ポイント	-
本地利用率(参考)	97.5%	△0.4ポイント	-	-	98.7%	△0.4ポイント	-	96.0%	△0.6ポイント	-

注：耕地利用率及び本地利用率は、耕地面積又は本地面積に対する作付(栽培)延べ面積の割合である。

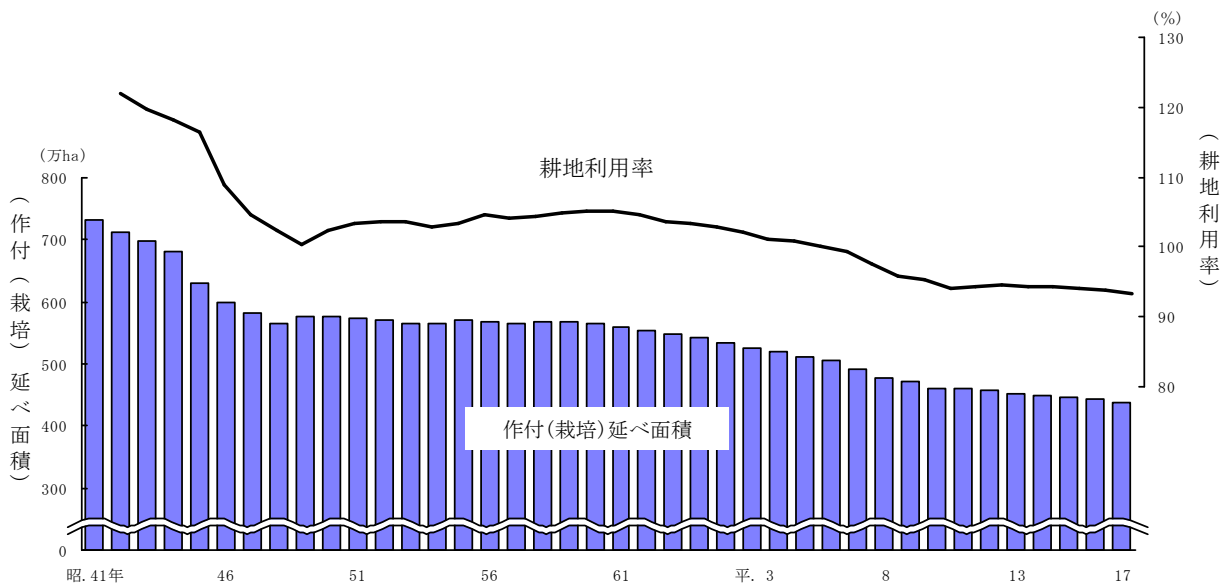
$$\text{耕地(本地)利用率(\%)} = \frac{\text{作付(栽培)延べ面積}}{\text{耕地(本地)面積(7月15日現在)}} \times 100$$

ウ 畑

畑の作付(栽培)延べ面積は200万5,000haで、前年に比べて1万4,000ha(1%)減少した。(表14)

これは、麦類の作付面積が北海道において小麦の作柄が安定していること等から増加したものの、工芸農作物、野菜等の作付(栽培)面積が生産者の労働力事情等により減少したためである。

図17 農作物作付(栽培)延べ面積及び耕地利用率の推移



(2) 耕地利用率

ア 田畑計

平成17年耕地利用率は93.4%で、前年に比べて0.4ポイント低下した。(表15)

なお、本地利用率(本地面積に対する作付(栽培)延べ面積の割合)は97.5%で、前年に比べて0.4ポイント低下した。

耕地利用率の動向をみると、昭和41年には121.9%であったが、42年以降低下傾向で推移し、平成6年には100%を下回った。平成11年に昭和59年以来15年ぶりに上昇した以降は、ほぼ横ばい傾向で推移している。(図17)

イ 田

田の耕地利用率は93.1%で、前年に比べて0.2ポイント低下した。

これを全国農業地域別にみると、北海道、北陸及び東海で上昇したものの、それ以外の地域では低下した。

なお、九州では、稲や豆類の裏作として麦類等の作付けを行う年二作体系の耕地が多いこと、沖縄では水稻の二期作が行われていること等から、それぞれ100%を上回っている。(表15)

また、本地利用率は98.7%で、前年に比べて0.4ポイント低下した。

ウ 畑

畑の耕地利用率は93.9%で、前年に比べて0.5ポイント低下した。

これを全国農業地域別にみると、北海道で上昇したものの、それ以外の地域では低下した。

なお、北海道では、飼肥料作物のすき込みによる輪作があることから、100%を上回っている。(表15)

また、本地利用率は96.0%で、前年に比べて0.6ポイント低下した。

表15 平成17年農作物作付(栽培)延べ面積及び耕地利用率(全国農業地域別)

全 国 農 業 地 域	田 畑 計			田			畑		
	作付(栽培) 延べ面積	耕地利用率		作付(栽培) 延べ面積	耕地利用率		作付(栽培) 延べ面積	耕地利用率	
		本 年	対前年差		本 年	対前年差		本 年	対前年差
	ha	%	ポ イ ント	ha	%	ポ イ ント	ha	%	ポ イ ント
全 国	4 384 000	93.4	△ 0.4	2 379 000	93.1	△ 0.2	2 005 000	93.9	△ 0.5
北 海 道	1 164 000	99.6	0.1	213 400	93.7	0.2	950 900	101.1	0.2
都 府 県	3 220 000	91.4	△ 0.5	2 165 000	93.0	△ 0.3	1 054 000	88.2	△ 1.1
東 北	772 900	87.4	△ 0.4	561 000	88.9	△ 0.1	211 900	83.8	△ 1.2
北 陸	286 600	88.7	0.0	256 300	88.4	0.1	30 300	91.3	△ 1.7
関東・東山	708 700	91.7	△ 0.6	409 200	95.4	△ 0.2	299 500	87.2	△ 1.0
東 海	256 000	90.9	△ 0.3	153 000	92.0	0.3	103 000	89.3	△ 1.1
近 畿	212 200	88.5	△ 0.3	165 300	88.8	△ 0.1	46 900	87.7	△ 0.6
中 国	209 300	81.1	△ 0.9	158 000	79.6	△ 0.8	51 300	85.9	△ 1.6
四 国	140 500	93.0	△ 1.9	90 000	94.5	△ 2.3	50 400	90.3	△ 1.7
九 州	598 300	104.3	△ 0.5	371 500	112.2	△ 0.6	226 800	93.5	△ 0.4
沖 縄	35 400	90.1	△ 2.1	1 140	130.0	△ 2.1	34 200	88.8	△ 2.4